

(目次) 頑張る地方応援プログラム

都道府県名	団体コード	市区町村名	プロジェクト名称	プロジェクトの目的、概要 及び 具体的な成果目標	プロジェクト 期間	具体の事業・施策(名称)	具体の事業・施策 (事業概要)	事業費 (計画全体) (単位:千円)	事業費 (平成21年度) (単位:千円)	政策分野 の分類 (①～⑩)	新規・継 続 の区分
北海道	015458	斜里町	斜里町中心市街地活性化プロジェクト	<p>(目的、概要) 疲弊している斜里町中心市街地の活性化を目指し、「世界自然遺産のまち・斜里」を印象づける駅前周辺の整備や賑わい・落ち着いたあるまじみの整備、さらに来訪者及び地域住民が楽しみ交流できる拠点の整備のほか、賑わい創出のためのソフト事業を展開し、官民一体による中心市街地活性化を図る。</p> <p>(具体的な成果目標) ①まちなみ整備や交流を育む拠点形成により回遊性・滞在性を向上させ、中心市街地における観光入込客の28,000人増を目指す。(78,000人→106,000人) ②JR知床斜里駅における観光案内機能の向上や世界自然遺産・知床の玄関口にふさわしい駅前空間の創出により年間の乗降客数の54,000人増を目指す。(165,000人→219,000人) ③安全な道路形成や潤いを魅力のあるまちなみの形成及び、商業・交流拠点の形成により、中心市街地における快適性、利便性を向上させ、中心市街地の人口減少率を1/2に抑制する。(6.6%→3.3%)</p>	平成19年度～平成22年度	中心市街地まちなみ整備事業	・まちなみ委員会と地域住民が一体となり、地域資源を活用した交流活動の向上を図るための「まちづくりフォーラム」の開催、地域活動・交流活動等に関する「ワークショップ」の開催、知床の玄関口にふさわしい駅前周辺地区を目指し、街路樹と併せ緑あふれるまちなみ景観を創出するための空地、遊休地などへの「緑化活動」等を行う。 ・うるおいある環境づくりのため、ポケットパークなどを配置し、景観に配慮し電線等の引込線の中地中を促進する。	90,500	38,800	⑦	継続
						中心市街地活性化施設等整備事業	・中心市街地において、道の駅とテナントミックス型商業施設を活用し、集客・誘引を図り、商店街での波及効果を狙う。 ・JR知床斜里駅に観光交流施設を建設し、観光客など来街者への情報提供を行う。	79,000	0		
						3・4斜里網走通他道路整備事業	・道道街路整備事業や土地区画整理事業による基盤整備事業を基にした商店街の再編を行う。 ・本線改良に伴う町道取付道路や上下水道の整備を行う。	285,200	45,500		
						総計	454,700	84,300			
ホームページアドレス(ある場合のみ) http://www.town.shari.hokkaido.jp/03admini/30zaiseijoho/files/syarityotyusin.pdf											
北海道	015458	斜里町	世界自然遺産知床環境保全プロジェクト	<p>(目的、概要) 斜里町は、世界自然遺産に登録された知床を擁する町であり、現在、国内外から注目を集めている。世界自然遺産登録に至るまでの町の取組みとして自然保護条例の制定や日本のナショナルトラスト版「知床100平方キロ運動」を展開するほか、自治体環境政策の推進を目的とした環境自治体会議で先駆者的な役割を果たしてきた。 しかし、現在、斜里町の一般廃棄物は、生ごみを堆肥化し農地に還元しているもの、その他の生ごみは破砕し埋め立て処理しているが、減容率が低い処理方式のため最終処分場への負担が大きく自然環境に負荷をかけている。 前述のとおり、斜里町は世界自然遺産地域の玄関口にあたる場所であることから、多くの観光利用者がもたらす生ごみを処理することも必要である。 このようななか、斜里町では生ごみ堆肥化のリサイクルに加え、平成6年度から空缶・空瓶・紙類など8品目の資源物を収集・再生するリサイクル事業をスタートさせるなど徹底した分別などにより、生ごみの発生抑制・再利用・再生利用を進めてきた。 しかし、最終処分場には限界があることから、従来の処理方式を見直し自然環境への負荷を軽減する中間処理方式が求められている。 そのため、生ごみの減容率の高い高温高圧方式(燃料化)等の処理施設を整備し、処理後の生成物を石炭代替燃料として民間ホテル等に販売し、資源を再利用するシステムの整備をする。また、生ごみは新たな処理方式の生ごみ堆肥化施設を整備し、廃棄物(生ごみ)を資源化し農地に還元するリサイクルを行い、さらなる3Rを推進するものである。 さらに、自治会・各団体など一体となり、地域住民も積極的に参画できる循環型社会を形成するための取組みをすすめる。</p> <p>(具体的な成果目標) ①最終処分場埋立量の3,000t減少を目指す。(年間4,000t→1,000t) ②新堆肥化施設の性能向上による堆肥生産量の200t増加を目指す。(年間500t→700t) ③一般生ごみの燃料化、生ごみの堆肥化によるリサイクル率の向上を目指す。(37%→70%)</p>	平成19年度～平成23年度	循環型社会形成・省資源リサイクル推進事業	・ごみ減量の推進として、各家庭における「生ごみの自家処理」の推進、住民団体による「資源の集団回収」の推進、女性団体を中心とした「マイバック運動」の支援、さらに小中学生を対象とした「環境教育活動」の実施などを行う。 ・資源の有効活用の徹底として、地域住民・自治会の協力を得て「資源物の分別収集」の徹底をすすめる。さらに地域住民と商店などが一体となった「再生品の利用拡大」をすすめる。 ・環境にやさしい生ごみ処理の推進として、自治会全体による「ごみステーションの適正管理」「ごみ搬出時の指導強化」を推進する。また、自治会・衛生団体などとも一体となり「不法投棄対策」の強化を図る。	18,781	18,781	⑩	継続
						基本計画等策定事業	・斜里町一般廃棄物処理施設整備にあたって、用地測量、地質調査等を実施すると共に施設の基本計画等を策定する。	42,459	38,609		
						総計	61,240	57,390			
						ホームページアドレス(ある場合のみ) http://www.town.shari.hokkaido.jp/03admini/30zaiseijoho/files/sekaisizenisansiretokankanyouhozenproject.pdf					
北海道	015458	斜里町	災害に強いまちづくりプロジェクト	<p>(目的、概要) 町民一人ひとりが、災害に備えることができるよう、防災意識高揚のための普及啓発活動や地域の核となる自主防災組織活動を推進するため、関係団体、町民を含めた実効性のある総合防災訓練を実施するとともに、町民への避難所周知のための標識整備、災害対策備品の整備を行う。 また、防災行政無線機の整備や市街地内のサイレン塔を増設することにより、防災体制の万全を図る。</p> <p>(具体的な成果目標) ①災害対応能力の向上と住民・地域団体の自主防災意識の高揚を図る。(自主防災組織の設立9自主防災会→38自主防災会、防災訓練参加者392人→500人) ②冬季災害時に必要となる備蓄品を毛布850枚、灯油ストーブ35台を整備する。(毛布備蓄450枚→1,300枚、灯油ストーブ備蓄13台→48台) ③災害時の連絡手段確保のため、防災行政無線機を5台増設する。 ④指定避難所看板を34枚更新整備する。 ⑤サイレン塔を1基増設する(8基→9基)</p>	平成19年度～平成23年度	総合防災訓練事業	町・消防・防災関係機関・町民が協力・連携して行う総合防災訓練の実施(非難訓練、災害時情報伝達訓練、災害救助訓練、水防訓練、消火訓練)	600	600	⑨	継続
						災害対策備品整備事業費	・冬季災害時に不足が予想される毛布・灯油ストーブを計画的に整備する。(毛布650枚、灯油ストーブ35台) ・災害に際し、災害対策本部と現場や避難所に配置された職員との通信手段確保のため、移動系防災行政無線機を5台増設する。	3,160	1,766		
						避難所標識更新事業	避難所の災害別表示標識を34枚整備する。	2,001	2,001		
						サイレン塔整備事業	町内に設置しているサイレン塔を1基増設整備する。	6,075	0		
						総計	11,836	4,367			
ホームページアドレス(ある場合のみ) http://www.town.shari.hokkaido.jp/03admini/30zaiseijoho/files/saigai.pdf											